

嵯峨天皇は、即位の翌年に起きた藤原薬子の変を経て権力を確立し、貴族をおさえて強い政治力をふるい、譲位した後も上皇として朝廷に重きをなした。その結果、この時期 30 年余りにわたって政治の安定した状態が続くこととなった。古代における律令国家や文化の変化の中で、この時期はどのような意味をもっているか。政策と文化の関わりに注目して、6 行以内で説明しなさい。

809 年 嵯峨天皇が即位する

810 年 蔵人所を設置する ア

812 年 この頃、空海が『風信帖』を書く イ

814 年 『凌雲集』ができる ウ

816 年 この頃、検非違使を設置する エ

818 年 平安宮の諸門・建物の名称を唐風にあらためる オ

『文華秀麗集』ができる カ

820 年 『弘仁格』『弘仁式』が成立する キ

821 年 唐風を取り入れた儀式次第を記す勅撰儀式書『内裏式』が成立する ク
藤原冬嗣が勸学院を設置する ケ

823 年 嵯峨天皇が譲位する

827 年 『経国集』ができる コ

833 年 『令義解』が完成する サ

842 年 嵯峨上皇が死去する

<問われていること>

<条件>

ア～サの内容について、グループ分けを行う。(政策 or 文化)

<Aグループ>

- ・該当するもの= ()
- ・共通していること=

<目的・理由> ↓

<Bグループ>

- ・該当するもの= ()
- ・共通していること=

<目的・理由> ↓

<Cグループ>

- ・該当するもの= ()
- ・共通していること=

<目的・理由> ↓

<Dグループ>

- ・該当するもの= ()
- ・共通していること=

<目的・理由> ↓

<Eグループ>

- ・該当するもの= ()
- ・共通していること=

<目的・理由> ↓

嵯峨天皇の時代は、 [] が図られるとともに

[] が図られた。

また [] 一方で、

貴族・官人には [] や [] が求められ、 []

こうした []